表　　彰

◎春の叙勲
令和3年4月29日
【瑞宝単光章】
元8分団　分団長　内藤　菊男
【藍綬褒章】
団本部　副団長　金子　三郎

◎高齢者叙勲
令和3年9月1日
【瑞宝単光章】
元1分団　分団長　髙橋　實

◎東京都消防褒賞
令和3年11月2日
第1分団　副分団長　磯部　宏
第2分団　副分団長　鈴木　健介
第7分団　分団長　榎本　広

◎秋の叙勲
令和3年11月3日
【瑞宝単光章】
元団本部　団　長　芦澤　治

◎第74回日本消防協会定例表彰
令和4年3月2日
【竿頭綬】
杉並消防団
【精績章】
第4分団　分団長　鎌田　文彦
【勤続章】
第9分団　部　長　川瀬　淳一

◎消防功労者消防庁長官表彰
令和4年3月4日
団本部　団　長　福田　浩二

◎消防総監定期表彰
令和4年1月6日
【特別優良表彰・竿頭綬(金)】
杉並消防団
【功績賞】
団本部　分団長　八ツ代　浩一
第6分団　副分団長　斉藤　祐利子
第8分団　副分団長　横井　誠
第9分団　副分団長　廣瀬　吉彦

【優良賞】
第1分団　班　長　和田　さとみ
第2分団　班　長　葉梨　俊郎
第2分団　団　員　塩崎　隆太
第2分団　団　員　大原　耕人
第2分団　団　員　大原　美香子
第2分団　団　員　富樫　光恵
第5分団　団　員　馬場　祐二
第5分団　団　員　渡部　秦士
第6分団　班　長　菊川　敬子
第8分団　部　長　成田　壽恵
第8分団　団　員　髙橋　功
第9分団　班　長　久保山　慎之介
第9分団　団　員　内藤　伸雄
【救命講習普及業務功労】
団本部　副団長　野村　敏子
団本部　部　長　松井　仲子
第2分団　副分団長　石黒　晴一
第2分団　部　長　小川　宗次郎
第2分団　部　長　中野　一郎
第6分団　部　長　坂本　みどり
第6分団　団　員　廣瀬　充明
第7分団　団　員　九島　守
第8分団　班　長　黛　藤夫
【防災訓練指導業務功労】
第2分団　班　長　木村　信一

◎防災部長賞
令和4年1月6日
【防災訓練指導業務功労】
団本部　副団長　野村　敏子

◎杉並区長賞
令和4年1月8日
第1分団　班　長　大瀬　倫道
第1分団　団　員　海野　真美
第2分団　団　員　大原　美香子
第2分団　団　員　大原　耕人
第6分団　団　員　伊藤　卓
第8分団　班　長　丸山　雄人
第8分団　班　長　中川　賢
第9分団　団　員　内藤　伸雄
第9分団　団　員　松尾　孝太

◎方面本部長賞
令和4年1月8日
【救命講習普及業務功労】
第1分団　団　員　藤島　波
【防災訓練指導業務功労】
第6分団　副分団長　斉藤　祐利子
第6分団　団　員　遠藤　桂子

◎杉並消防署長賞
令和4年1月8日
【優良団員】
第1分団　団　員　髙木　貴史
第1分団　団　員　藤島　波
第1分団　団　員　矢口　泰之
第1分団　団　員　前山　直子
第2分団　団　員　富樫　光恵
第2分団　団　員　湯泉　卓馬
第2分団　団　員　森　さくら
第8分団　団　員　黒野　巧己
第8分団　団　員　金田　美緒
第9分団　団　員　阿河　光平
第9分団　団　員　山口　毅
【救命講習普及業務功労】
第2分団　部　長　浮須　真也
第4分団　団　員　松本　裕子
【防災訓練指導業務功労】
第1分団　分団長　安達　章久
第2分団　部　長　毛塚　まさみ
第3分団　部　長　北村　茂雄
第6分団　団　員　落合　瞳
【消防団入団促進功労】
第6分団　分団長　佐野　修
第6分団　副分団長　佐藤　一泰
第9分団　部　長　佐藤　賢人

◎消防総監感謝状
令和4年1月8日
【永年勤続団員の家族に対する感謝状】

第4分団　部　長　林　政夫
家族　林　真由美　様

◎杉並消防署長感謝状
令和4年1月8日
【永年勤続団員の家族に対する感謝状】

第1分団　副分団長　磯部　宏
家族　磯部　淳子　様

第9分団　部　長　川瀬　淳一
家族　川瀬　一子　様

消防団員募集！

入団資格　18歳以上の健康な方
問合せ先　杉並消防団本部　電話　3393－0119（内線　320）

すぎなみ消防団広報
けやき
No.81
編集
発行
杉並消防団
広報委員会

令和4年　杉並消防団始式

福田団長

新入団員紹介

令和４年１月８日（土）立正佼成会セレニティホールにおいて、杉並消防団の新春を飾る「令和４年杉並消防団始式」が、挙行されました。新型コロナウイルス感染防止のため、杉並消防団員のみで執り行い、団員３４２名のうち、８０名程度が会場で参加し、他の団員については、ライブ配信により視聴するという新たな形をとりました。

福田浩二杉並消防団長の訓示から始まり、各部門における表彰、岡田一将杉並消防署長から式辞を頂戴し、閉式となりました。以下、福田団長の訓示を抜粋し掲載します。

訓示

（前略）昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大により、始式、操法大会及び合同点検といった三大行事をはじめとし、多くの消防団活動が中止を余儀なくされました。このような中、７月の集中豪雨では静岡県熱海市において土石流災害が発生し、杉並消防署からも精鋭部隊が派遣されたと伺いました。また、２０１１年に未曽有の被害を発生させた東北地方太平洋沖地震から十年という年の１０月、東京地方に地震が発生し、多くの消防団員が参集し災害に備えたことは、記憶に新しいことであります。我々消防団員が忘れてはならないことは、過去の災害の記憶を胸に刻み、風化させることなく次世代へ伝承していくことの大切さや教訓を顧みて、改めて地域に根付いた消防団活動の重要性を強く認識することであります。

杉並消防団員としては、災害活動、各種訓練、警戒等を実施すると同時に、地域住民の皆様の防火防災思想の普及啓発や防火防災訓練指導を積み重ね、地域の安全安心の確保、地域防災力の向上を図ることが重要な任務であると確信しております。

このことから、本年は「消防団員の確保」「災害活動能力の充実強化」「地域防災力の向上」（中略）の三つの重点を柱として、課せられた使命の重要性を深く認識し、杉並消防署との緊密な連携のもと、杉並区の安全安心のため努力を重ねることで杉並区民の負託に応えていく所存であります。

杉並消防団員各位の、より一層の奮闘を期待します。（後略）

全国消防団員意見発表会に東京都代表として出場

第６分団　菊川班長

第３４回東京都消防団員意見発表会で最優秀賞を受賞し、東京都の代表として全国大会に出場することができました。全国大会は、新型コロナウイルスの影響で書面審査とはなりましたが結果が楽しみです。

原稿を書くにあたり、改めて「消防団」の現状、未来の在り方について考える、良い機会を頂いたと感謝しております。自分の目指す日本の防災の未来のために、今後も消防団活動を頑張って参ります。

第８分団・第５分団の新分団本部が完成しました

第８分団新分団本部

令和３年４月に第８分団の新分団本部（下高井戸３丁目２６番１号）が、令和４年３月に第５分団の新分団本部（高円寺北４丁目３５番４号）が完成しました。それぞれの新分団本部には車両等も順次配備される予定で、火災はもとより、地震などの大規模災害発生時の活動拠点としても、広く活用していきます。

第５分団新分団本部

コロナ禍での点検と訓練

消防団の各分団では有事に即応できるよう定期的に可搬ポンプ等の資器材点検や訓練を行っています。コロナ禍でも地域の皆様のご理解とご協力をいただき、感染対策を取りつつ、切れ目なく実施することが出来ています。いつ起こるかわからない火災等の災害時に、迅速な消防活動が出来るように消防団員一同、重要性を深く認識し努めています。

可搬ポンプ機関員訓練（第１分団）

可搬ポンプ点検（第３分団）

第７０回はたらく消防の写生会

「はたらく消防の写生会」は、小学生のみなさんに、消防団員や消防車両の写生画を作成していただくことで、消防の仕事への関心を高め、防火防災意識の向上を図ることを目的としています。令和３年度は７０回目の開催を迎え、４月５日から５月２１日の間で行われました。

上：高井戸小学校（第９分団）
左：堀之内小学校（第２分団）

杉並区総合震災訓練

ＶＲ防災体験車の展示・広報
第２・３・４分団が訓練に参加

令和３年１１月１２日（土）、晴天の都立和田堀公園第一競技場において、約１,５００名の住民が参加する「杉並区総合震災訓練」が実施されました。震度６強の首都直下地震が発生したとの想定で、消防団隊、消防署隊、町会等の自主防災組織、災害時支援ボランティア、中学生レスキュー隊による合同訓練を行いました。

消防団は、倒壊建物から要救助者を救出後、担架で搬送し、可搬ポンプを活用して火災現場に一斉放水を実施しました。「いつ起きてもおかしくない震災」に対する連携訓練の大切さを共有する一日となりました。

年末年始消防特別警戒

厳しい寒さとコロナの脅威がチラつく 12 月、杉並消防団各分団は今年も各所で年末警戒を実施しました。拍子木を鳴らし、火の気がないかよく見ながら住宅地や公園、大通りなどを徒歩と積載車の両面から巡回し、火災予防活動を行いました。

成三町会防災会の皆さんと夜警（第７分団）

どんど焼き警戒

永福稲荷神社（第１分団）

今年も、各地で「どんど焼き」が行なわれ、地域の方々とともに、正月明けのひとときを過ごしました。

杉並消防団は、可搬ポンプ等を準備し、万が一の事態に備えました。これまで、大きな事故は起こっていないようですが、空気が乾燥している時期であり油断は禁物です。最後の放水の時まで、緊張感を持って警戒に当たりました。

地域の行事に関わることで、消防団員としての誇りや使命感を再確認する時間にもなりました。